

所沢市教育大綱（案）への想い

所沢市は真に子どもを大切にするマチとなるう。
大切にすることは、なで回すことじゃない。奥にしまい込むことでもない。
烈風の中に置かれても、耐えて逞しく、奮って勇ましく、
みずからの生を謳歌せんとする子ども自身の力を信じることだ。

ここでは、「子どもを大切にする」ことに対する市の姿勢を述べています。

何不自由なく育てたり、困難を事前に取り除いてやることではなく、社会の荒波の中で困難に耐える力や立ち向かっていく力、時には遠回りしたり立ち止まって考えたりする力など、子どもたちが元来持っている生きる力を大人たちは信じて見守るべきであることを表しています。

それには愛情の裏づけがなくてはならない。覚悟がなくてはならない。
命を尊ぶ誓いがなくてはならない。豊かな自然がなくてはならない。
ふるさとの宝である子どもたちが堂々と社会に躍り出ていくその日まで、
大人は目をそらさずに、絆を深めながら、誠実に進んでいこう。

子どもを信じて大切にすることにあって必要なことを示しました。

《目指す四つのこと》

- 一、 **心身の鍛練**
人と自然の中で、心と体を鍛える。

「鍛える」には、「育む」、「支援する」といった意味を含んでおり、社会や自然の中で生き抜いていく力を身につける術を伝えていこうという、大人たちの心構えと態度を表しています。また、前文と合わせて自然を保全していくことも含まれています。

- 一、 **基礎知識の養成**
学習の基礎基本は、これを全員が身につけられるよう支援する。

将来的にも必要となる、例えば、分数の計算や九九、漢字などの基本ともいうべき知識を身につけさせるために、大人たちの力や市の施策としての資源を投入するということを示しています。

**一、 価値の提示
生きる指針ともなるべき大切な価値を伝えていく。**

何をやったらいけないのか、ではなく、やってはいけないことをやらないと判断できるようになるための生きる上で大切にしてほしい価値を、教師や周りの大人たちが自らの生き方・生きる姿を通して日々伝えていくということを提示したものです。

**一、 経験の蓄積
自分に自信を持ち、また人の素晴らしさを知る経験をさせる。**

義務教育の間に社会の荒波の中で生き抜いていくための力をつけさせなければならないということ、そのためには、いわゆる授業だけでなく、特別活動や部活動、地域での活動など、教育の中で様々な経験をさせることの重要性を示したものです。

**そのために、所沢市は全力を傾注して施策を展開する。
大人は憧れの存在となるべく、範を示していこう。**

これは、以上で述べたことを実現するためには、教育委員会だけでなく、所沢市（市長部局）として可能な限りの施策を推進するという、市の覚悟でもあります。

また、大人も子どもの前では人生の先輩として自らの生きる姿を見せ、子どもに寄り添いながら生きてほしいということを示したものです。